

ひまわり

令和6年 1月号



↑カラー版はこちらから

『3学期が始まる』

校長 門脇 伸也

最初に、能登半島沖地震で亡くなられた方々に深く哀悼の意を捧げます。また、寒さが深まるこの冬、被災された方々にとって、より一層厳しい状況での生活に、お見舞いと支援をお届けしたいです。私たちはできる範囲での支援活動に参加しましょう。物資や寄付金の提供、ボランティア活動など、自分のできることを実行に移すことが大事です。

先日19日、全国特別支援学校肢体不自由校長会代表者研修会においても、今後、益々防災週間、避難訓練や災害に関する授業など学校安全の質の向上を図っていかねばならないと話題となりました。防災について、唯一無二の防災・安全対策は存在しないからこそ、創造性を豊かにした想定と改善の繰り返しが重要なのだと思います。また、本校の児童・生徒は、自分の身に危険が差し迫ったことを察知することや、危険を知らせる情報を受け取ることが難しい場合が多く、私たち教職員だけでなく、たくさんの方々の支援が必要となります。改めて、今回の能登半島沖地震を機に、地域及び行政組織と絡む防災対策を本格的に検討していく必要性を切に感じております。

さて、3学期は短く、一年間のまとめとして意味のある学期です。また、寒さも一段と厳しくなり身も心も縮まる時期でもあります。そのような中で、活気ある学校生活を如何に送るかは、工夫が求められます。

- ・15日には話題の大谷翔平選手からのグローブが届きました。触ったり、手にはめたり、眺めたりと子どもたちを元気付けてくれました。
- ・新宿中央公園内のエコギャラリーでは、区内の児童・生徒の連合作品展が開催されています。校外学習の一貫として、時間に余裕をもって見学することができました。
- ・自立活動の時間を中心に、ウィンターチャレンジが行われています。決めた時間内でどれだけ走れるか。ウォーカーを使用したり、教員の補助で自立歩行したりと活気ある風景が体育館内や廊下、階段と校内で見られます。
- ・毎週土曜日には、中学部の有志のクラブであるハンドサッカーの練習会が行われています。新宿養護学校、都立永福学園、都立光明学園を会場とし、4校以上が集っての練習試合が計画されています。
- ・細やかながら中学部の教室には、生徒の落語の発表がありました。
- ・小学部で新宿オペラシティへ買い物学習に出かけたり、小学部・中学部でCSR（西新宿地区の企業）との交流を行ったり、楽しい時間を過ごしました。



新宿中央公園内を進む
本校のスクールバス

これから保護者の方も面談等で来校される機会もあります。保護者の方が来校すると子どもたちは張り切ります。我が子の学習風景を是非御覧ください。学校を開いていくことで笑顔が増えていきます。

しかし、気を付けなければならないこともあります。コロナウイルス感染数は横ばいの状態であると医療関係者からは聞いています。日を迫うごとに区内小・中学校ではインフルエンザによる学級・学年閉鎖が出てきました。本校は、引き続き感染症予防対策を継続しておりますが、時折一斉メール配信でお伝えしているとおり、児童・生徒、教職員でコロナウイルス感染症やインフルエンザに罹患することもあります。校内に持ち込まない、持ち込ませない、この点は引き続き御理解と御協力をよろしく願いいたします。

一年で寒い2月を迎えます。本校の桜の木に小さな芽が次第に育ってきています。温かな春を楽しみに待ちましょう。保護者、地域及び関係機関の皆さま、御自愛ください。

「生徒会役員交流会」

12月25日（月）に、新宿区内の中学校11校が参加する第53回新宿区立中学校生徒会役員交流会が開催されました。今年度のテーマは「これまでの経験を活かし、私たちの未来について考えよう」です。各学校で今年度取り組んだ生徒会活動について紹介をしたり、グループ協議を行ったりして、生徒会活動の活性化を図りました。新宿養護学校の生徒はオンラインで参加し、あいさつ運動や緑の募金活動、デザートだいすき運動、エコキャップ運動について、紹介しました。限られた時間の中での発表となりましたが、児童・生徒の代表としての責任感と適度な緊張感をもち、生徒会役員一丸となって取り組むことができました。発表に向けて、生徒一人ひとりが自分なりの発表方法や、どうしたら活動内容が伝わるかを考えながら練習に励んだ結果、素晴らしい発表となりました。また、各校の生徒会活動の取り組みを知る良い機会となりました。今年度も残すところあとわずかとなりましたが、最後まで児童・生徒会をよろしくお願いたします。



「鶴巻小学校との交流」

12月15日（金）に本校の小学部3組が鶴巻小学校へ行き、6年生の児童と交流を行いました。例年、鶴巻小とは年2回の交流を実施しています。前回の7月はオンラインで交流を行い、今回は4年振りに対面での交流になりました。

最初に、両校の児童でチームを組み、ポッチャのゲームをしました。最初は緊張していた両校の児童でしたが、車いすを押ししてもらったり、ボールを渡してくれたりすることを通して、お互いに自然な関わりが生まれました。その中で、声の掛け合いや表情でコミュニケーションを取っていき、緊張がほぐれていきました。

次に、鶴巻小の6年生が手話と合唱で歌を披露してくれました。3組の子どもたちは、6年生たちをじっと見て歌声に聞き入っていたり、一緒に身体を動かしたりしていました。3組からは、ハンドベルの演奏したビデオメッセージを後日送り、交流会のお礼を伝えました。お別れの時には、自発的に3組の子どもたちから6年生へハイタッチをする場面が見られ、温かい雰囲気の中で交流を終えることができました。

これからも交流を続け、両校の関わりを大切にしていきたいです。



『セーフティー教室』～安全について考える～

1月19日(金)に新宿警察署よりスクールサポーターの方に来校していただき、セーフティー教室を実施しました。最初に例年通り、不審者侵入の避難訓練を行いました。スクールサポーターの方に「不審者役」になっていただき、エントランスから「見知らぬ人」が入ってきて、教室に入ろうとしている場合の避難訓練を行いました。教員が教室に入らないよう声掛けをし、児童・生徒はそれぞれの教室で教員の指示に従い、不審者の姿を見ないよう、教室内で静かに待つことができました。

訓練終了後、全校児童・生徒が参集し、体育館で「セーフティー教室」を行いました。最初に訓練の振り返りをし、訓練の動画を見て、スクールサポーターの方から「今日の訓練はよくできました。100点でした。」との講評があり、今日と同じように「先生の話をよく聞くこと」「相手に姿を見せないこと(教員が児童・生徒を)」が大切との話を聞きました。その後、安全について動画をみて、①知らない人にはついていかない②知らない人の車にのらない③おおごえで助けを呼ぶ④すぐ逃げる⑤大人にしらせるという安全のキーワード「いかのおすし」や「不審者ってどういう人」についてスクールサポーターの方と一緒に動画を見たり、話を聞いたりして学びました。学校としては常に万全の体制を整えていますが、改めて安全について考えるきっかけとなりました。

今後も引き続き、教職員一同、児童・生徒と共に安全について考えつつ、万全の体制をとっていきます。



研究部より

「ローテクでもICT&スイッチの工夫」

ICTと聞くとハイテク機器を想像すると思いますが、ローテク(旧式、単機能等)でもICTとして利用できることを紹介させていただきます。それは電動タイプライターによるタイプアートです。電動タイプライターは、パソコンがない40年以上も前から活躍していて、文字入力だけでなく、タイプアートとしても、大変利用されてきました。今でも利用されています。キーを打って印字しますが、文字の形やインクリボンの色を工夫して、自分のイメージで根気よく打ち込んで一つの絵画作品として完成させます。足で打って作成する方もいます。パソコンの方が良いという方も多くいるでしょう。とにかく一人ひとりの実態やニーズに合わせて、より良いものを導入していくことが大事だと思います。何をどのように、何のために使うかをよく考えて、取り入れていきましょう。



スイッチのことを少し紹介いたします。

手の操作で入力が困難な場合、スイッチを使用して入力の補助をすることがあります。iPadは画面で主に指で操作をしますが、指の操作が困難な場合は、スイッチ入力を利用します。しかしiPadにスイッチがつながるようにするためには、ライトニングケーブルをUSBに変換しないとスイッチをつなぐための機器がつけられないことが多いので、手間がかかります。そこでスイッチがつながるように改造したBluetoothマウスを利用すれば、無線でiPadにつながり、マウスにしたいスイッチをつないで操作できるようになります。右写真は、改造マウス本体、改造マウスにスイッチをつないだ状態のものです。活用場面が広がります。

